

最近歐米史界管見(下)

文學博士 三浦 周 行

史學研究室 (續)

大陸の旅から英國へ引返した私は、再び開校後のロンドン大學を訪ひ、ケムブリッジ、オックスフォードを次ぎ／＼に視察して、或は史學に關する諸教授の講席に列し、Tutor の學生の指導振を見させては學生の自習法をも注意したが、傍ら又ロンドン大學の Vyalas 教授や Knowles 教授及びケムブリッジ大學キングス、カレッジの Clapham 氏等と Seminar についての意見を交換して見た。

以上の記述に據つても略推測するに、獨逸の大學の史學科に取つて Seminar は必ず闕くべからざる者となつて居るけれども、英吉利では必ずしもさうでなく、寧ろ之を置かぬを原則として居

る。ロンドン大學が近く Institute Of Historical Research を創設したが、其一つの誇となつて居る丈でも、英吉利に於ける此種の設備の稀有に屬する何寄の表示であらう。尤此 Institute は種々の點に於て獨逸の大學專屬の Seminar を選つて居るところがある。昨年版の The Yearbook Of The Universities Of The Empire には此 Institute を説明して

A series of seminar libraries of books containing or describing the main sources of English and European History. Training and guidance provided for Post-graduate Students History from all Univs.

といつて居る。其中前者は獨逸の大學に於ける

Seminar の圖書室と同じであるが、後者の諸大學

から來る史學の Post-graduate Students の練習及

び指導に役立てるといふことが、此 Institute の一

大特色であらう。現に此 Institute の委員は大多數

ロンドン大學の教授ではあるが、オックスフォー

ド、ケムブリッジ及びマンチェスターの教授も少

數乍ら參加して居る。即ち單なるロンドン大學の

Institute たるを以て甘んじないで、英吉利諸大學

の Institute を以てみづから任ずるものである。こ

れ亦偶諸大學に於て此種の設備のないことを明示

して居るのである。若しも一々の大學がそれ〴〵

此種の設備を具へやうとするならば、これが爲め

に多額の經費を要して而かも其完璧を望まれない

から、これを此一つの Institute に集中して完備を

期する積であるとは、委員の一人たるキングス・

カレッヂの Hearnshaw 教授の直話であつた。委員

長たる Palard 教授の英吉利の國史に關する史料

をロンドンに蒐集すべしとの意見は亦これと關聯

して居る。同教授は一昨年ロンドン大學のユニヴ

ーシティー、カレッヂで開催された Anglo-American

Conference of Teachers of History で此勸議を提

出されたけれども、英國に於ける地方大學の人々

に慚ばれなかつた爲めに、其成立を見るに至らな

かつたのは、是非なき次第である。且つやロンド

ンは大學と程遠からぬ距離に完全なる古文書館、

博物館、圖書館等の史學研究機關の具備して居る

點に於て前にも述べたソルボンヌと略同一の狀況

にあるから、創立以來日の尙ほ淺い Institute が多年

の歴史と豊富なる内容を有する是等の諸機關を

凌駕しやうとはもとより豫想されぬ事であつて、

其前途は極めて遼遠であると謂はねばなるまい。

Sir Gregory Foster 氏の大學改善に關する昨年二

月の演說中にロンドン大學々生の多數は各自其家

庭より通學するから、オックスフォードやケムブリッジの如く寄宿寮を設くる必要はないが、若しも遠隔地方より通學する多數の Post-graduate and research Students の爲めに、ロンドンの中樞地點に寄宿寮を設けて、彼等が其圖書館やブリチシュ・ミュージゼヤムや、レコード・オフィス及び大學の實驗室等を容易に利用し得るやうにしたならば、ロンドン大學に一段の強味を加へて多大の効果を惹起すことにならうと切言して居るのを見て、史學殊に英吉利の國史研究者に取つては、なまなかな研究室の新設よりも、寧ろ是等の既成完備の諸機關を最も容易に利用し得べき便宜の地位に置かれた方が、何程か幸福であるに相違ない。現にロンドン大學の教授學生は申すに及ばず、私の前に言及したロンドンの各學校に於ける歴史擔任の教官の如きも盛んに是等の諸機關を利用しつゝあるのである。

而かも斯る恩恵は中央首都の學生に限られた特典であつて、地方のそれに及ぶべくもない。然らば何が故に後進の獨逸の大學に普通な Seminar が大學に於ては伊太利や佛蘭西に次いで古い歴史を有する英吉利に於て發生せなかつたか、否其發生が後れたか。此問題は種々の方面より考慮すべきであるが、今試みに私の注意に上つた二三の點を列擧しやうならば、第一、英吉利に於ては、各學大學は勿論各カレッジにもそれ／＼比較的完全な圖書館が其構内にあつて、教授學生の利用についても出來得る丈の便宜を與へて居たから、少くとも史學の如きはそれ以外に Seminar の圖書室の設備を必要とせなかつたであらう。オックスフォードやケムブリッジの大學及び各カレッジの圖書館は建物が概して古い丈に、近代的建築法から見ても採光の不充分や閲覧室の狹隘等遺憾の點も少くはなからうけれども、其改善には絶えず相當注意が

拂はれつゝあるやうである。私がオックスフォードの Bodleian Library を見學した後、何か新規な設備はないかと聞くと、館員は Radcliffe Camera の地下室を見て呉れとの事に、案内さるゝ儘歩を移したが、そこはライプチヒのフォック書肆杯で見らるゝやうに上下二重になつた書庫であつて鐵製の書架は（下部は經費の都合により木架となつて居た）好みのまゝに上げ下しの出来る上に、書架自身底部に鐵の輪を附けられて自由に出し入れも出来大なるパイプの通風機はうなりを立てゝ始終運轉して居る杯最新式の設備は地上の本館の思ひ切つて舊式なものと異様の對照をなして居た。而かも其多年の蒐集に依つて架藏の圖書の豊富なること兩大學の圖書館に共通であつて、英本國の外世界各國の研究資料を網羅し、東洋方面殊に日本に關する貴重の圖書標本をも含んで居るには驚かされるのである。英吉利の大學やカレッツヂの圖書

館には又書庫内に於ける閱覽者の便宜の爲に、書架と書架との間の凹間を利用して一脚のテーブルを書架と並行に置き、數脚の椅子を備へて居るところの Alcove system のあるところがある。教授や研究科の學生はそこに陣取つて讀書することを許されるが、例へば歴史の部門に屬する書架に近く史學科の教授、學生の席を置いて架上の圖書の閱覽を便利にするといふ風に各部門々に適當の注意が拂はれて居る。これを見た私はそれが圖書館の内部丈に歴史のそれに接して地理其他關係圖書の手にあるものも閱覽の便を有する點は Seminar の圖書室以上に有效なる設備であると思つた。

第二、由來英吉利の大學では殊の外自由を尊重して居る。國家が大學やカレッツヂの意志を左右するが如き干渉は千六百八十八年に棄權されて以來決して再現されぬ。これが英吉利の大學制度を佛

蘭西や獨逸のそれと差別すべき重大なる事實であつて英吉利の識者は It is a precious part of our intellectual and moral heritage as a nation として大なる誇として居る。世界大戰後の形勢が一變して別けても財政上の深刻なる打撃を受けた同國の大學が、一面其施設の完成を期する爲めに國家より相當の補助を仰がうとする共に、他面にはこれに依つて大學に對する國家の干涉を誘導し、延いては其獨立を失ふに至らんかどの危懼を懷いて居る位である。私がケムブリッジに居た頃、一日 Cambridge Union Society を訪うて、討論會場や圖書室、閱覽室等を巡覽し、猶ほ寄贈を受けた規則書、年報に目を通して見た。此種のソサイチーはもとより歐米の諸大學に通じてないものはなく、英吉利ではロンドン大學の如き比較的に新しい大學は其設立も後れて設備萬端完全とは行かないが、ケムブリッジのやうな古い大學では、ソサイチー

の歴史も古く、諸般の設備何れも完備に近いやうに見受けた。此ソサイチーは討論ディスカッションを行ふことを以て其目的の隨一に置いて居るのであるが、私は一昨年の十月から昨年の六月迄の一學年間に於ける討論題を見て忽ち異様の感に撃たれざるを得なかつた。それらが政治、經濟、教育、文學等の各方面に互つて居るのに不思議はないけれども、只日本の同じ場合に見懸けるやうな純學術的問題の代りに現代に於ける實際問題を取扱つて居るのが注意されるのである。例へば政治的方面に於て現在(一昨年十一月)愛蘭の領袖等との間に行はれつゝある商議が破裂した場合、直に暴壓に轉ずるの外なきか、現政府の對埃及政策を是認すべきかといふやうな問題から、國際關係に於ける最近佛蘭西の態度を遺憾とすべきか、英米間の親善關係設定に對する兩國相互の氣乗薄が世界の平和を危殆ならしむるか杯といふ國際問題に迄及んで居る

は未だしも、我國の政治組織は腐敗して居るから改革の急に迫つて居ると認むるか、現政府を排除して自由主義に對する即時轉換を歓迎すべきか、抑といふ際、い問題さへ取扱はれて居る。當日は各カレッヂから賛否の論者を出して、忌憚なき討論が行はれるが、論者の中には間々カレッヂの學長前學長、副學長等もないではないが、大多數は勿論學生であつて、稀れにはオックスフォードやダブリンからも參加して居る。彼昨年三月現政府排除案の討議の場合の如きは、前學長が二名迄も賛成側に立つて居るが、採決の結果、大多數を以て可決された。これに反して英米關係が世界の平和を危くするとの動議は否決されて居る。私はこれを我國の現狀と思ひくらべて、英吉利の大學から大政治家や大外交家等の輩出した歴史が決して偶然でないと思つた。自由の精神はやがて個性の尊重となつて現れる。英吉利大學に於ける教育方針

の根抵がこゝに置かれることは各教授の辯明を俟たずとも、容易に看取し得べきところである。獨逸流の Seminar の研究上の便宜はもとより何人も否定すべきでないけれども、著を取るだけによく整つた膳立や手を取るばかりに親切を盡くす教授の指導振は英吉利の學風と一致しさに思はれぬ大學に關係ある或英國婦人は私に向つて獨逸の大學では學生の研究業績をよく教授の名で發表するけれども、英吉利では學生の名であることを指摘した。併し前者が教授の著述として、若しくは教授と學生との共著として發表するのは、其業績が實際教授の指導に負ふところの多いこと到底後者の比でない爲めにも依らうと思はれる。獨逸に於ては苟くも學生の業績で Seminar と教授の指導とに挨たないものがあらうか。其結果は自然學生が教授の感化を受け過ぎてこれに依頼することゝならう。Seminar のない英吉利の大學を以てこれに

比べると、其教育方針は全く放任としか見えない
但英吉利の大學には古くから前にも説いた如く

Tutorial system が行はれて、教授は學生に對する
面會日が定まつて居るけれども Tutor は何時でも
差支なき限り學生に逢つて指導をすることになつ
て居る。而かも其指導振は二人以上多數の學生を
一室に集めて行ふ Seminar のそれとは違つて、必
ず一人に限られて居るから、他の模倣に依つて千
篇一律となるが如き弊を避け得ると共に Tutor 其
人もよく學生の個性を知つて充分にこれを助長し
發揮させるやうに誘導して行くことが出来る。私
の見たケムブリッジの Temperley 氏の指導振は前
にも一言した如く、學生の提出した小論文を閲覽
した後、指導を受けに來た本人に向つて問題の見
方についての種々の質問を試み、學生が答辯に苦
めば、更に問題の側面から開發的に説明もし質問
もして學生が正解に達すると、惜氣もなく讃辭を

與へ乍ら次の問題に移るあたり、巧妙を極めたも
のであつた。

亞米利加でも、ハーワードやプリンストンの如
英吉利大學の影響を承けた大學に於ては Tutorial
system を實施して居る。(コロムビアのテイ
チャー・カレッツの Johnson 教授は同カレッツ
には Tutor に似た Adviser のあることを私に
話された) 私がエール大學の Adams 教授と此
System について話し合つた時、同教授はこれを
歎美して、金ど人どさへあれば實施すべきもので
あるといはれた。如何にも同感であるが、それが容
易でないことは、オックスフォードやケムブリッ
ジに於てすら世界大戰後、財政の困難と學生の増
加とに脅されて此歴史ある制度の支持が聊か危ぶ
まるゝやうになつて居る事實でも知れやう。且つ
や此制度は主としてカレッツで實施されるのであ
つて、Post-graduates はこれに與らぬのであるか

ら私の今取扱つて居る Seminar の問題に直接關係のある譯ではない。

第三には獨逸の大學では教授がすべての學生を平等に取扱つて其研究を指導するに努めるけれども英吉利や佛蘭西はこれと趣を異にして、成績の優秀なる學生に限られ、さもないものはこれを放任するの傾きがある。Tutorial system にしても、學生みづから研究して Tutor の指導を仰ぎに出懸けるものは寧ろ優良なる少數のものに限られ、然らざるものは自然 Tutor の室に遠ざかり勝となるけれども Tutor は別にこれを問はないのである。後日私がロムビア大學の政治學部の部長 ディーン *Voyle* 教授に逢つて話柄が英米大學教育の比較に及んだ時、教授はオックスフォードやケムブリッジの Tutorial system は専ら優秀なる學生を相手として他の學生を顧みないアリストクラチックなものであるが、これに反して亞米利加の大學は一

般の學生を一樣に相手として居るデモクラチックなものだといつて笑はれた。此點に於ては、少數の除外例を除くの外、亞米利加の大學は獨逸のそれと共通點があると謂へやう。さり乍らこれは主として Under-graduate の場合であるが、Post-graduate の場合は、亞米利加の大學でも、成績の優秀でない學生の入學は餘り喜ばぬやうであつて、此輩に向つては相當の口實を設けて諭旨退學の方針を執つて居るやにスタンフォード大學の某教授が私に洩らされた。一般學生の高等専門に關する研究心が旺盛であると共に、其研究慾を満たすべく各種の設備の開放されて居る點は遠に獨逸であるが、英吉利や佛蘭西から見れば、優良學生以外に對してそれは全く無用の沙汰であらねばならぬ。私はロンドンに滞在中、オックスフォード及びケムブリッジ兩大學王立委員會の報告書を見たが、其中には B.A. の學位を得た後學生の多數が更に

研究に従事する機會を與へられんことを望み乍らそれが獨逸や獨逸のそれを模倣した他の諸國の大學制度に左袒して居るのでないことを辨疏して居た。彼等委員の觀察に據ると、是等の大學で二流三流のものさへ加はつた男女學生の大多數が往々不完全なる一般教育を受けたばかりで、研究に従事することを獎勵されて居るのは決して好まじき現象でないのである。これ私が前に述べた如く英吉利の大學では獨逸と違つて優秀なる學生に限つて研究に従事するの資格を認めて居るからである。而も委員は今日英吉利に於てオクスフォードやケムブリッジの如き大學でも、其第一流の學生に向つてすら經費の都合上彼等に適當なる最高等の獨創的研究に従事させることも出來ねば、獎勵もして居らぬことを遺憾として居た。研究資格の制限には一理あるけれども無條件では遽に贊成し難い併し此點は確かに少くとも英佛と獨逸とのアカデ

ミック・システムを支配する精神上相容れざる相違である。獨逸の大學で普通な *Seminar* が英佛のそれで發達せないのは主として私が數へた三つの原因に基くのではあるまいか。勿論後者は其文明が古く、守舊的精神に富んで居る爲めに、舊制保守の傾向あることも、第四因としてこれを擧げなければなるまい。現に英吉利に於ても、ロンドン大學の如き比較的歴史の新しく因襲に捉はれることの少い大學では獨逸の影響を受けたと思はる Institute Of Historical Research の建設が聊か後れ馳の氣味はあり乍ら、兎も角も着手されたことはこれを立證するものである。私は英吉利の史學界に於ける此新事業の將來を一つの興味ある謎として注視すると共に、委員長たる Pollard 教授其他私の逢つたロンドン、オックスフォード及びケムブリッジの委員各位の爲めにも其成功を祝福せんとするものである。

歐洲の旅行に思はず時日を費して亞米利加の滞在日數僅に一箇月足らずとなつた私は、大學としては地方的に代表的な四五の視察に満足するの外なかつた。即ち東部に於てはコロンビア大學を振出しとして、エール、ハーワードの兩大學、中部ではシカゴ大學、西部ではカリフォルニア及びスタンフォードの兩大學であつた。就中東部地方は比較的長く滞留したから、其印象も一と入深いのは是非なき次第である。今私の取扱つて居る史學研究室丈について觀察すると、是等の諸大學が歐洲の影響を受けて居ること言ふ迄もない。就中獨逸の影響の目立つて見えるのはすべてに於て *Seminary* の設備のあることである。報告、討論等演習の方法に於ても亦大差ないといへやう。而かも是等の大學を通じて私の注意に上つた亞米利加大學の特徴は、*Seminary* と大學の *Library* とを別々に取離さないで、*Library* の内にこれを置くこ

とである。勿論それには是等の大學丈でも除外例がある。例へばコロンビアに於ては一般圖書館の建物とは別に、史學の圖書室即ち所謂 *Departmental Library* があつて、それに接して手狭乍ら教授室が相竝んで居る。私は其一室に *Hayes* 教授を訪問すると、教授は偶學生の演習を指導して居られた爲め、暫く隣室の女タイピストの部屋で待たされたことがある。これが抑私の最初の亞米利加大學訪問であつたから、私の第一印象は亞米利加の大學の史學研究室は獨逸の摸倣に過ぎないといふのであつたが、其後エールに行つて始めて圖書館の書庫に近く設けられた *Historical Seminary* を見た。こゝには一つは亞米利加の國史と他は其他の諸國として歐羅巴史との二つの *Seminary* がある。階上の書庫を出でて程遠からぬところに稍廣い閱覽室があり其の奥狭く仕切つた一室が演習室となつて居る。閱覽室には史學に關する普通本

を周圍の壁に沿うた架上に置いて、こゝに入室を許された學生の閲覽に任されて居る。貴重圖書其他特殊のもの杯は圖書館に於て閲覽せねばならぬがこゝからの出入は頗る便利である。私が Johnson 教授の *The Literature of American History* の演習を傍聴した時教授が史料としての珍貴な古新聞雜誌を圖書館から持參して學生に示し乍ら説明されたのを見て、研究室と圖書館との聯絡は斯様にありたきものと思つた。

次いで又私はエールの圖書館長 Keogh 氏からハーワードの圖書館長 Coolidge 教授に紹介されて仔細に同大學の圖書館を始め館内にある *Seminary Rooms* や *Special Libraries* を仔細に見學し又亞米利加史界の權威たる Haskins 教授や Turner 教授等の演習を傍聴するに及んで始めて最も私の理想に近い研究設備を發見したとの感激に満たされた。此圖書館は Harry Elkins Widener Memorial

Library と稱せられ、千九百十二年に彼タイタニツク號沈没と共に溺死した同大學出身の Widener 氏の記念の爲めに建てられたものである。其頃年若かつたワ氏は自身の趣味から三千冊の珍本を蒐集して居つて、若しもこれを置くべき適當な建物が出來た曉には母校に寄附するやうにと言遺して置いた。然るに當時其條件を充たすべき建物が同大學になかつた爲めに、ワ氏の北堂 Mrs. Widener が大學の大圖書館たるべき一切の要求に合ふものを建築して同大學に寄附したのが、即ち現圖書館である。千九百十三年に起工してから滿二年を費して千九百十五年に竣成した。建築の方針が既にさうであつたから全體の結構といひ、内部の裝置といひ、實に完美を極めたもので、Widener Memorial Room を始め、Treasure room, Farnsworth Room (矢張同大學の出身で千九百十五年佛蘭西で戦死した Farnsworth 氏の爲めに其兩親の寄附

に係る室) Delivery room 其他書庫閱覽室カード室等何れも寛濶なる場所を占めて見るからに氣持がよい。而かも私の讚歎して措かないのは、猶ほ他にある。こゝでも三階(日本流では四階)の書庫の上に Seminary room が相並んで居るが、其中最も廣い室で Haskins 教授の演習に用ゐて居たところには周圍の書架に多少の圖書が置かれてあつたけれども、概して書架の設備はあり乍ら圖書は殆ど見當らなかつた。言ふ迄もなく最も書庫に近いからであらう。書庫に入つて見ると、驚いたのは窓側に沿うて大きな本立を備へた一脚のデスク (Delivery Desk) と椅子とが置かれて、學生の Private study に供されて居るものが都合三百の多きに達して居ることゝ、且つこれも關係書庫の兩側に主として同大學の教授及び他から來訪の篤學者の爲めにする専用の研究室が約七十迄設けられて居ることであつた。書庫内のデスクと聞けば、

光線の不充分的な陰鬱さを思ひ浮べられやうが、事實はこれを裏切つて非常に明るい。教授の研究室は稍手狭ではあるが、一人の書齋としてはデスクのあたり當用の圖書を容れた上に、猶ほ數人とも會談し得る餘地がある。私が Turner 教授の亞米利加史の Seminary の傍聽を終つたところへ、館内案内の爲めに見えた Abbott 教授と共に、タ教授の研究室を訪づれると、そこには教授のデスクの横に、方七八寸許の木の箱を幾十となく積み重ねたものが置かれてあつた。それには各種のノートが一抔入つて居つて、一枚一枚のものもあれば、一冊のパンフレット杯もあつて大小雜多ではあるが、それ々々見易く分類されて居るのを覗いて見乍らア教授は實に驚異すべきものだど歎聲を發せられた。何れはタ教授に取つての研究の玉手筈であらう。暫くして反對の側にあるア教授の研究室に案内されたが、こゝには壁に沿うた書架

に多くの參考圖書が竝べられ、教授も亦々教授同様の玉手筈の五六を几邊に積み重ねられて居るのを見受けた。

この圖書館は史學に關する藏書が殊に豊富であつて、オトマン帝國及び民族學のそれは他に比類がなく、歐洲史殊に獨逸史と佛蘭西史との研究史料に於ては亞米利加國中最も藏書に富むといはれて居る。是程の藏書を手近に置いて、さながら自身の書齋の如く自由に利用し得る教授、學生は如何ばかり幸福であらう。是等の特別席に於ける圖書の閲覽は決して一時的ではなく、若しも引續き借りて置かうと思へば、兼ねて交付された一枚の印刷した厚い紙片の上部に Charge at Delivery Desk とあるものゝ指定の部分にそれゝ書架の番號座席の番號及び自身の氏名を書き入れて、本に挿み其上部をつき出して置けば、館員が一定の時期に廻つて來てそれを截取つて持つて行つて呉

れるから、今度は其代りに同じ紙片の Reserved と記した部分を挿んで置けばよい。若し不用となつて返さうと思へば、又同じ紙片の末端に Return to staff と記した部分を本に挿んでデスクの上に置けば館員が始末して呉れる。尤自身で書架に戻し入れることは許されぬ。若し又一箇月以上に互つて借りて置かうと思へば、其紙片を取換へさへすれば宜しい。教授の研究室には入口の戸の middle に小さな紙片を入れる箱が出でゝ居る。教授用、學生用共其座席は手廣いから、自身の所藏本を持つて來て、研究に従事することも出来る。但此場合は館員の不注意で書架に持つて行かれぬやう閱覽者自身の氏名を其本に載せて置くやう注意されて居る。

この Seminary が獨逸のそれと異なる點は Seminar の圖書室に當るものが殆どないといつて宜しいことゝ、圖書館が即ち Seminar の圖書室で

あることゝで、従つて又 Seminar に附屬する閱覽室といふものもないことである。Seminar の圖書室には普通よく讀まるゝ圖書を置くの例であつてこれ丈では研究上決して充分といへぬから、史學の研究の如きは必ず別に圖書館の利用を必要とする。若しも *Secondary* を大圖書館の内に置くことが出来たならば、それは理想的の設備であらねばならぬ。私はハーワードに於て所謂 *Library centralization* の實現に接したのである。而かも僅々七年前（昨年から數へて）の新施設であつて遠き將來はいさ知らず、今日に於ては殆どこれに加ふべき何物もないかと思はれた。尤ゝにも *Special Libraries* がなごではないが、それも此新館の出來ぬ前は別な建物に置かれてあつたものが今は大抵館内に纏められることゝなつたから、研究上の不便を感じるやうなことは決してなからうと思はれる。

此館内の特別閱覽席の設備が如何にハーワード大學圖書館の誇であるかは苟くも同大學圖書館の事を書いた程のものには皆これを特筆して *A distinguishing characteristic* として居るのでも知れやう。

.....Its distinguishing characteristic is the provision of alcoves or stalls for private study along one side throughout its entire length on each of the six upper floors, so that the student who has access to the shelves will always find convenient table space near at hand where he may take the books he needs to use and may keep them undisturbed..... (The Harvard Library And The Harry Elkins Widener Memorial Library Building)

而かも此設備は敢て亞米利加大學の獨創といふ譯ではなく、私の前に説いた、英吉利の大學やカレ

ツヂの圖書館の Alcove system に由來して居ると思ふ。所詮 Library 中心の英吉利風に、獨逸一流の Seminary の一部を加味して、それを亞米利加の富力で理想的實現を見たものが即ち亞米利加式の Seminary であるといひたい。

エールの圖書館は設備が不完全である爲め、近く新築の計畫が略成つて敷地の選定も濟んで居るやに聞いた。ハーワードの見學を終へてエールに歸つて來た私は早速 Keogh 氏に逢つてハーワードの圖書館から受けた私の好印象の一端を述べて挨拶をすると、生來負け嫌ひといふよりか寧ろエール思ひのキ氏は言下にハーワードに Delivery Desk の三百あるものなら、我等の新築圖書館には三百五十も四百も作つて見せませうといはれた羨しい事だが、我等には當分夢想だも出來ぬ。それは兎も角、其後私の見た各地の大學に於てはハーワード程大規模のものは見當らなかつたけれど

も型に於て一致したものはあつた。例へばカリフォルニアでは圖書館の中に圖書室と閲覧室とを兼ねた Seminar room があり、又スタンフォードではこれも圖書館の中に同様 Seminar Library & Reserved Book Room がある。彼 Delivery Desk の如きも型ばかりの小さな机を書庫の兩側に置いて居るものはこゝそこで見受けたが、中にもカリフォルニア大學の有名な Bancroft Library の書庫内に Graduates の使用に供する爲めに設けられて居るデスクの如きは數に於て少いけれども、其大きさは略ハーワードのそれに髣髴たるものであつた。又スタンフォードでは學生の爲めにも少數乍ら一間と仕切つた研究室の設備があるのを見受けた。

演習の方法は教授に依つてもとより一様ではない。私がシカゴ大學で史學科長 McLaughlin 教授に逢つて此事に言及した時、教授は自分も同僚の

誰彼もそれぐに皆其流儀が違ふと言つて笑つて居られたが、それが當然であらう。併し私の見學した限りでは、一つの共通な大きな題目の中から學生各自に小題目を與へて逐次報告をさせ乍ら質問討論を進めて行くといふ遣口が多かつた。報告の方法は報告書を朗讀するもの、要點を書綴つたものを見乍ら敷衍して行くもの、杯是亦一様ではなかつたが、何れも材料をカードに抄録したものを收めたカード箱を座右に置いて時々自身でも又教授の質問に逢つても、これを繰り乍ら引證するを例として居た。指導教授の中には、少く聞いて多く辨するエールの Andrews 教授の如きもあればそれと反對に多く聞いて少く辨するハーバードの Tunner 教授の如きもあつた。總じて一人の報告が餘りに長くて時間を取るのを教授も學生も黙して聽いて居る場合はだれ氣味となることを免れぬ。そこへ行くと、ア教授の如きは耳の悪いせゐもあらう、

いつも聲も張り上げ時には手を振り杯して元氣よく、要所々々を捉へて質問に毫も學生を倦ませず、指導して行かるところ手に入つたもので、傍で聽いて居つてもきびくとして氣持がよかつたが、夫丈學生に取つてはなかく樂ではなさうであつた。長いテーブルの一端に教授が腰を懸けられると、それに近く男學生一名と女學生二名とが向ひ合つて席に就いて居る。教授は開始に先きだつて私の爲めに特に演習の目的其經過の大要をひとわたり説明されたが、要するに、亞米利加の殖民地に於ける英吉利の制度を取扱ふものであつて、男學生はマッサチューセツツ、女學生の一人はニューヨーク、一人はサウス及びノース・カロライナを分擔し、各自其史料をカードに抄録して居るといつて彼等に其カード箱を出させて私に示されたのを見ると、多數の書き溜めたカードを男學生は事項別に、女學生はアルファベチカル

に檢出し易きやうに分類をして居つた。男學生が喋々とマツサチユーセツツの制度を説明した後を受けてマツサチユーセツツシステムは他の州とは餘程變つた特殊のものであることを指摘されるかと思へば、私に向き直つて日本の場合の行政組織を質問さるゝ等時間割の上では二時間となつて居るものを、三時間ぶつ通しで、教授學生共不斷の緊張を續けた後、次回の討論の題目を言渡して漸く退散となつた。女學生の一人でニューヨークの報告者は教授の質問に對して應答流るゝ如くで、心なしに教授も聊か敬意を表して居らるゝやうに見受けたが、後に教授から男學生と他の女學生とは共に B. A. で M. A. の學位を得やうとするものであるが、件の女學生は現に M. A. で Ph. D. を得やうとして居ると聞かされて、適に争へぬものと思つた。演習の終つてから暫く餘談を交へて教授と室外に出でた私は又隣りの圖書室に居残つて

讀書に餘念のない件の女學生を見受けたのである。教授は私の雜談の中に Seminary course は教授が學生の研究を助けるばかりでなく、教授も亦學生に助けられ相互に助け合ふものであるといつて居られたが、學生は少數乍ら研究に没頭する人丈あつて頭腦の明晰なものも少くなく、一々の原料について精緻な研究を遂げたものに對しては、教授の方でも亦啓發さるゝ場合があるらしいが、そこは Democracy の國丈あつて、教授の知らぬことは有體に I am not quite sure 扨と他日の調査を約するは平氣である。ハーブードの Haskins 教授はエールのア教授と同じく米國史界の耆宿である。私は同教授の Historical Bibliography and Criticism of Seminary を傍聴したが Seminary rooms の中では最も廣い室で Primarily for Graduates の爲めではあらうが、出席者は二十三名、私は未だ Seminary では是程多數の學生を見た事がない

狀貌魁偉精力旺盛年齒六十前後かと思はるゝ教授は講義を始めらるゝ前に私と旅行の事抔暫く談笑して後一隅の椅子にかけられたまゝ、一枚の原稿をも持たずに、溜々と亞米利加の東部から中央、西南北と有力なる公私の圖書館古文書館博物館等を中心し、それらに藏する國史の史料の重なるものを舉げて物に依つては簡單な解題をも試みられ又地方史會等の地方の學會に迄言及されたが、各圖書館の藏書の特長を舉げられた中に新聞紙の收藏に富むことを指摘されたのを聞いて、私は日本の圖書館でも此方面の蒐集に着手すべき餘地があることを思合せた。教授は説明を終つた後今後の研究方法を説かれて、學生各自に其分擔すべき部門を申出させ、一々これを書留められた後、次回より討論を行ふことを言渡された。私は教授の講義が丁度自身のこれから見學に參らうとする地方の好案内となつたことを感謝して猶ほ亞米利加

各州に現存さるゝ地方史會について特殊の興味を有することを述べると、教授は更に私の旅行の途次に當つて居る見學箇所について前の説明を補足された。此點については同一の示教に預つたワシントンのカーネギー・インスティテューションの歴史研究部長 Jameson 教授と共に深厚なる謝意を表したい。

最後に私はエール大學の Adams 教授の談話の一節を以て此章を結ぼう。A 氏は今は定年を過ぎて退隱されて居るけれども、演習の天才であつたことを同氏に師事された朝河教授より聞いたから同氏の紹介で一夕私邸に訪問した。瘦軀鶴の如き白髮溫顔の教授は演習の方法に就ての私の質問に應じて別段に變つた意見もないがと前置し乍ら、Undergraduates に對しては成るべく少數の組に分けてこれを行ひ、又講義前に十分間小論文を課するもよからう。又 Graduates に對しては同一の題

目を一同に課して討論を行はせるに如くはない。

少の卑見があるが、大體に於て穩健の説と思ふ。

論文を読みますことは他の學生の興味を惹起さぬから練習にならぬ。尤教授より豫め其問題についての Bibliography を授けることはしないで、學生自身に檢索させることゝしたい。或は演習は中世史迄は行へるが、亞米利加の近世史の如き餘りに史料の豊富な時代は實行不可能であると説く人もあるが、それは其方法を知らぬからで、自分は決してさうは思はぬと謙遜なる教授の目も是時ばかりは強い自信に輝いて居た。教授は猶ほ外國の研究法に移つて、獨逸大學の Seminar が學生に論文を書かせて多數の中で報告をすのは面白くない、自分はそのよりも佛蘭西の Ecole rationale des Chartres や Ecole pratique des Hautes Etudes のやうに、少數の組に分けて行ふ方に左袒する云々と説かれた。(英吉利の Tutorial system に關する同氏の批評は前に引用した)これについては私にも多

私はこれより猶ほ歐米の重なる古文書館、博物館の如き研究機關や史學會、史學雜誌等の發表機關に關する管見を掲ぐる豫定であつたが、誌面の都合で、別に題を改めて書くことゝした。